

第4回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会

の開催結果

- 1 日 時 令和8年2月26日(木) 15時00分～16時50分
- 2 場 所 富士吉田市役所東庁舎2階 206会議室
- 3 出席委員 16名(委員名簿順)
廣田健委員長、品田笑子委員、渡辺利彦委員、勝俣米治委員、
前田厚子委員、勝俣大紀委員、渡邊淳子委員、宮下公雄委員、
浅沼鎮雄委員、遠山賀津男委員、村松悟委員、親田悠平委員、
中村亮太委員、深澤なつき委員、遠山賢子委員、
加々美せつ子委員
- 4 出席職員 白須企画部次長、柏木教育委員会次長、青山企画課課長補佐、
林教育研修所所長、安保学校教育課課長、
清水学校教育課課長補佐、丸山学校教育課課長補佐、
羽田学校教育課主幹
- 5 内 容 (1) 開会
(2) 委員長挨拶
(3) 【議事】
①第3回検討委員会会議録の承認について
②富士吉田市立小中学校の再編について
・再編案における10年後・20年後の捉え方の確認
・各委員への意見聴取
・意見の取りまとめ
(4) 閉会

【本日の資料】

第4回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会 次第

第4回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会 席次表

会議録

○事務局

定刻となりましたので、ただ今から、「第4回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会」を始めさせていただきます。

議事に入るまでの間、私、教育委員会 学校教育課長の安保が進行を務めさせていただきます。

本日の会議につきましては、お手元の会議次第により進めさせていただきます。

本日、渡邊久美子委員、庄司学委員、関口亨委員、伊藤秀一委員におかれましては、ご欠席となる旨、事前に連絡を頂戴しております。

なお、本委員会の会議につきましては、委員数16名のご出席をいただいております。委員会設置要綱第5条第4項に規定されております定足数に達しておりますことをご報告させていただきます。ここで、皆様の机にご用意いたしました本日の資料の確認をさせていただきます。

【本日の資料】

第4回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会 次第

第4回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会 席次表

の2点になります。

これまでの委員会では事務局において資料説明をさせていただく時間が多く、委員様方に活発なご意見を交わしていただく時間を確保できずにおりました。

本日は説明用資料のご用意はありませんが、委員長のご進行により、これまでの検討委員会における検討資料や皆様からのご意見等を振り返る中で、学校再編について委員さん方のご意見をお伺いできればと考えております。

本日の委員会では前回の委員会までに配布させていただきました資料をご覧になることがあろうかと存じます。これまでの配布資料に不足などがありでしたら、お申し出いただきたいと存じます。不足等ございませんでしょうか。

○各委員

<不足なし>

○事務局

それでは、次第2に進ませさせていただきます。

はじめに、廣田委員長からご挨拶をいただきます。よろしく願いいたします。

○委員長

本日は、それぞれのお立場からご意見をいただきたいと思います。全員の方からのご発言をいただくような形で進行したいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、廣田委員長に議事の進行をお願いしたいと存じます。

廣田委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、次第3の【議事】①「第3回会議録の承認について」です。

第3回検討委員会の会議録について確認いたします。第3回会議録を承認することにご異議ありませんか。

○委員

<異議なし>

○委員長

ご異議なしと認めます。

よって、第3回会議録は承認されました。

次に、【議事】②「富士吉田市立小中学校の再編について」です。

まず、「再編案における10年後・20年後の捉え方の確認」をいたします。

資料の中にある再編案における10年後・20年後の地図につきましては、再編計画を進めていく中で、それぞれ、10年後と20年後の配置を示しています。この期間中、再編計画は段階的に進行するので、10年後、20年後に急にこのような配置になるわけではありません。前回の委員会で確認させていただいておりますので、共通認識は得られていると思います。

次に、前回の委員会で提示しました3案に対して、各委員からのご意見を聴取したいと思います。

どなたか、ご意見はございますか。

○勝俣（米）委員

これまで、主に地域の代表としての発言が多かったわけですが、市全体で考えることが必要だと思います。

○委員長

地域の方の意見を出し合いながら方向性を確認していくことは必要ですが、本委員会では、市全体の視点からの方向性を固めるための議論を中心に行います。

○宮下（公）委員

明見小の校長先生から、子どもありきで考えていただきたいという意見があり、その通りだと思います。また、中学校の配置を検討する際には、通学手段、通学距離を考慮する必要があります。明見中の生徒全員が、下吉田東小跡の中学校に通うとすれば、スクールバスの運用の検討が必要になると思います。

計画では、明見中は再編後、校舎の改修を行い、明見小を移転することになっていますが、改修計画費用等の見込みが甘く、更に精査する必要があると思います。

また、下一小は、非常に良い学校なので、再編後に学校をなくすのではなく、地域に活かしていけるような方法を十分に議論していく必要があります。

○事務局

改修等の費用は、直近の工事实績からの改修単価を、対象建物の延床面積に乗じて算出したものです。実行計画においては、建物の状況や劣化状況などの調査を踏まえ、工事内容を精査して取り組んでいきます。

○委員長

通学距離、通学手段に関しては、事務局も対応を検討しています。他にご意見はありますか。

○品田委員

施設の改修につきましては、子どもたちの安全を確保することが最低限必要だと思います。また、子どもたちのことを第一に考え、どうすれば子どもたちにとって一番良い状態になるかを考えていくことには同感します。

○浅沼委員

上吉田地区は再編がないので、吉田中の学校運営協議会では方向性への意見はなく、各地域の状況を踏まえて進める必要があるというご意見がありました。

地域での教育においては、幼保から小学校への接続が重要で、幼児から中学校までの教育のありかたを議論する必要があります。

福島県のある地域では、震災後の町おこしとして義務教育学校を立ち上げ、0歳から15歳まで一貫して行っています。人口減少への対応だけでなく、人を呼び込むための魅力ある教育に取り組むことも必要だと思います。

○渡邊（淳）委員

下一小の学校運営協議会では、大きな反対意見はなく、市の再編の方向性については概ね理解されています。下一小は、地域に密着した非常に良い学校ですが、人数が少ないため、児童たちは合唱など大人数でできる経験がないことから、下二小と一緒にすることでこのような課題を解消してあげたいと思います。

下一小がなくなるのではなく、下二小と一緒にすることで、学校名を新しくし、新しい学校をつくっていくことが必要だと思います。

観光バスが非常に増えてきており、下一小の通学路が危険な状態なので、子どもたちの安全確保も必要です。

○委員長

下一小が下二小に吸収されるのではなく、両方のいいところを持ち寄って、新しいコミュニティの核となるような学校を目指していく必要があります。

○渡辺（利）委員

下一小が下二小と一緒にすることには、同意いたします。学校名は変える必要があります。ただ、地域性を考えると、下一小の子どもが全て下二小に行く訳ではないと思います。

富士小、富士見台中については上暮地に人があつまるような魅力ある学校づくりにすべきだと思います。山梨県では、義務教育学校はまだありませんが、教員配置に関する条例改正、山梨市では小中一貫校の設立の動きがあります。

上暮地に義務教育学校をつくることは、子どもを中心として考えた魅力ある学校づくりになると思います。

○前田委員

上吉田に住んでいるので、地域においては切実な問題だと感じていませんが、子どもたちの、特に低学年の通学路の安全性を心配しています。

○勝俣（大）委員

第1回の委員会で子どもの声を聞いて反映してほしいという意見がありましたが、その後どのような経緯で取り組んでいますか。

○加々美委員（市教委）

令和7年11月に「市長さんと話す会」において、各学校の児童会、生徒会の子どもたちに2点質問しました。

- ・10年後、20年後どんな学校になっていけばいいのか。

「笑顔があふれる学校」、「誰にとっても楽しい学校」、「10年後も今の学校がいい」、「今のように少人数をいかした学校」、「自分たちの学校が残ってほしい」、「伝

統が未来につながる学校、そして更に発展する学校」、「地域交流ができる学校」、「県内の学校と交流ができる学校」、「自分のやりたいことが学べる学校」

・友達はどれくらいいたほうがいいのか

「友達の数よりもその人同士の交流を大切にしたい」、「少人数でもみんなと仲良くすることが大切」、「全校の人数が問題ではなく、信頼できる人が何人いるかが大切」

子どもたちの意見をまとめると、自分たちの学校が大好き、学校生活に対する誇りや安心感を持ちつつ、よりよい未来を願う気持ちが読み取れました。

現状維持の希望として受け止めるだけでなく、小規模校が育んできた温かい人間関係や地域との交流を再編後の学校にどのように引き継いでいくかという観点から大切にしていきたい。

再編方針と異なる意見に対しても、否定的に扱うのではなく、再編後の学校にどう活かしていけるかを考えていきます。

○中村委員（教職員）

吉田小に勤務しています。チーム富士吉田として富士吉田をもっと良くしていこうという考え方を第一に考える必要があると思います。そのためには、地域や学校関係者、保護者など、幅広く情報を共有していくことが必要です。10年後、20年後の姿やその目的が明確になったら、関係者や子どもたちにはその伝え方も工夫する必要があります。

計画のゴールが明確になったら、通学路におけるバスや自転車などの通学手段の検討などの具体的な対応策については、各学校の教員が決めていきます。

愛知県では小中学校の教員の行き来が盛んですが、山梨県は異動システムがないのが現状です。そのため、義務教育学校は全く知らないところからスタートすることになり、これまでと全く違うことから本当にできるかどうか不安な面がありますが、前向きに取り組んでいきたいと思います。

○委員長

小学校、中学校の教え方のシステムが違うので、現状においては義務教育学校を設立していくための準備はかなり多いと思います。

○親田委員（教職員）

富士見台中には、少人数を言い訳にしないで頑張ろうという土壌があります。教員は、生徒の意識をどう高めていくのか、より良い生活を送るためにどうするのかということに取り組んでいます。計画のゴールが明確になったら、参画していく必要があると考えています。

○村松委員（教職員）

目の前の子どもたちと向き合って、子どもたちにどのように力をつけさせていくかを考えています。子どもたちには、具体的な学級数や人数などを説明するとむしろマイナスになると思います。市全体からみると、学校規模や施設設備に学校間の差があることは課題になりますが、それぞれの学校には良さがあるので、未来志向の中でどうするか、難しいと思います。

○委員長

児童生徒の将来推計から、このままだと、10年後、20年後には学校間の規模の差異が更に大きくなり、同一水準の教育環境の維持が更に難しくなることから、今回の学校再編検討が始まっています。

○勝俣（米）委員

富士小・富士見台中は連携がよく行き届いています。更に一步進めて新しい教育の在り方を検討して欲しいと思います。

現在でも、富士見台中の学区から電車で下吉田中に通学する生徒が多いようです。電車通学は、過去脱線事故があったことから、危険ではないかと思っており、通学路の安全性を考えて欲しいと思います。

○遠山（賀）委員

富士見台中の学校運営協議会では、地域に再編案を説明して色々な意見を吸い上げて欲しいという声が多かったです。また適正規模の数合わせの議論だけでなく、「魅力ある学校づくりをどのようにつくっていくのか」、「少子化の進行が予測されている中、そうならないためにどうするのか」、「どうすれば住みやすいまちになるのか」などの意見がでました。

○深澤委員

上暮地に住んでおり、富士小・富士見台中を卒業しました。人数が少ないので、なくなるという話は以前からありました。人数が少ないため、できることが少ない一方で、自分の学校を大切にす気持ちや友達同士のきずなも強いと思います。また、大規模校になじまない子どもの受け入れ先となっている側面もあります。

地域から学校がなくなるのは厳しいので、学校は残して欲しいと思います。

○遠山（賢）委員

中1の子どもが中学に上がる時に変化を感じました。うまく切り替えができたのだと思います。小中一貫教育では中一ギャップの問題解消につながると言われていますが、小中一貫教育であっても、切り替えがうまくできることが大事です。

富士吉田市は、バスなどの公共交通機関が少ないと思います。子供たち以外でもお年寄りにも必要なことだと思います。

○委員長

これで、全員からご意見を伺いました。

小規模校、大規模校ともにメリット、デメリットがありますので、双方の良さを議論しても方向性は決まりません。

富士吉田市は少子化が更に進行すると予測されているため、今後、児童・生徒数が今より更に少なくなると、同一の学校教育を維持するのが大変になることから、学校再編の検討が始まっています。

これまで、富士吉田の子どもたちみんながどこにいても共通の教育を受けられるようにするためにはどうすればいいのか、そのためには、規模を合わせるだけでなく、「魅力ある学校づくり」をどのようにつくっていくかを議論してきました。

各校の保護者からのアンケートでは望ましい学校規模が「クラス替えができること」が圧倒的に多かったため、適正規模・適正配置検討委員会では、市民の多くの意見を考え、ある程度の規模が必要だという方針を出しています。

学習集団の視点で考えると、子どもたちが積極的に議論を進めていくには、1グループ4人前後、3から6グループ必要ですので、1学級当たり12人から24人くらい必要になってきます。

○品田委員

4人が組めなくて3人で組むところもあります

○委員長

これまでの議論をまとめると大きく分けて、以下の3点になります。

①同一の学校教育を維持するために一定の学校規模が必要です。

そのためには、子どもたちが積極的に議論できる規模が必要です。全国的には1グループ4人が多くなっており、グループ間での議論を行うためには、3から6グループが必要になります。クラス替えが必要になると、現状の小規模校ではこのような環境をつくるのが困難になることから、適正規模の方針で定めた規模に近づける必要があります。

②地域での教育においては、幼保から小学校への接続が重要で、幼児から中学校までの教育の在り方が重要になります、そのためには小中一貫教育や義務教育学校への取組みも検討する必要があります。

③教育以外の視点では、子どもたちの安全に通学できる通学路の確保が必要です。それ以外の意見はありますか。

○勝俣（米）委員

上暮地地区には幼稚園がありません。幼児から中学校までを教育の一環の流れで考える必要があるので、設置の検討をお願いいたします。

○浅沼委員

幼児向けの育児機能を持たせられる学校があればいいと思います。

○品田委員

魅力ある学校をつくっていくために、子どもたちの意見を幅広く聞いていくことも必要だと思います。

○勝俣（大）委員

通学路の安全性と通学に利用される交通機関がネックになっていると思います。例えば、小学校や中学校を回ってくれるバス路線をつくることも考えられます。

○渡邊（淳）委員

下一小の学校運営協議会で、スクールバスがあっっているような学校に行けるようにしてほしいとのご意見もありました。

○中村委員

教員はスーパーマンではありません。理想を掲げて、その対応を現場に投げることにはやめて欲しいと思います。現場ではどうすれば良くなるか前向きに取り組んでいるので、配慮をお願いしたいと思います。

○委員長

「意見聴取」につきましては、ここまでとさせていただきたいと思います。最後に、「意見の取りまとめ」ということで、本日、委員の皆様からいただいたご意見をまとめさせていただきます。

学校再編においては、市全体で同一の教育環境が実現できるような一定規模の確保を市の方向性とし、地域の意見を取り込みながら、具体的な内容について進めていきます。

小中一貫校、義務教育学校の取り組みは、具体的な検討を行いますが、実現できなくても小学校と中学校との連携強化を図っていきます。

学校再編において、通学距離の長さや通学区域の安全性などに問題が生じた場合には個別に手厚く対応していきます。

それでは、議事（２）についてはこれで終了といたします。

以上で、予定していた議事は終了しました。
進行を事務局にお返しいたします。

○事務局

廣田委員長、ありがとうございました。

ここで事務局から事務連絡がございます。

次回会議の日程につきましては、来月の開催を予定しておりますが、日程が決まり次第、委員様宛の通知を発送させていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上で第4回富士吉田市立小中学校再編計画検討委員会を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。

以上